



Title	故大久保侯爵告別式参列に就て
Author(s)	太田, 勘兵衛
Citation	懷徳. 1943, 21, p. 47-48
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/89107
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

△六月二十七日

源先生の指導にて京都西本願寺の國寶襖繪建築等を見學し、それより市電、大宮今出川停留所附近の妙蓮寺に到り休憩後、先生の同寺の襖繪屏風繪に就ての御講演を拜聽し、見學す。參加者約百名、盛會を極む。

△七月十五日

十三日薨去せられた大久保利武侯爵の告別式が東京の青山齋場にて舉行せらる。本會を代表し幹事太田勸兵衛君參列す、太田幹事の參列記事を左に掲ぐ。

故大久保利爵告別式參列に就て

太田 勸兵衛

昭和十八年七月十五日午前十時東京青山齋場

故大久保利爵告別式參列に就て

にて、故大久保利武侯爵の告別式が執行はせられた、私の如きものが堂友會を代表して故侯爵の告別式に參列した事は、一寸變に考へられるが、事は大正十三年夏、懷德堂記念會創立者、故西村碩園先生の告別式に、聽講生代表として當時の記念會理事長永田仁助様に伴はれ上京の途中、車中の永田様が「今日は御苦勞ですな、時に太田さん、もう一度必ず東京のお葬ひに行つて頂かねばなりません、それは現在の懷德堂を建立します時の長官であらせられた大久保様が、萬一の時は、必ず忘れずに參つて下さい」とのお話に因るのです。

七月十五日午前十時青山齋場に到着しまして直に懷德堂記念會から託された哀辭を靈前に獻じ、拜禮して退下致しました。因に記念會より

の哀辭を左に掲げて置きます。

哀 辭

嗚呼公世家ノ休光ヲ掲ゲ、其ノ德厚ク其ノ勳
隆シナリ、曩ニ公阪府ニ尹タリシ時、敝會ガ
舊庠ヲ重建セント欲シテ、狀ヲ具シテ稟陳シ、
公地ヲ假ランコトヲ請フヤ、公ハ欣然トシテ
之ヲ府會ニ諮リ、即チ允許ヲ賜ヘリ、爲ニ敝
會ノ經營亟ニ成リ、絃誦復タ興ルヲ得タリ、
是レ偏ニ公ガ學ヲ好ムノ懋德ニ賴ルモノニシ
テ、其ノ鴻恩永ク敝會ノ忘レザル所ナリ、而
シテ公冠ヲ挂ケテ京ニ還ルト雖モ、公ハ其ノ
評議員タル故ノ如ク、時ニ教言ヲ賜ヒ、マタ
新年ノ讌、公洛ニ在レバ必ズ駕ヲ枉ゲ、竊ニ
樂ム所アルモノノ如シ、敝會モ亦其ノ警歎ニ
接シ、壽ノ彌高カラシコトヲ祈リシニ、詎ゾ

圖ラン忽チ計ヲ聞ク、往年ノ感荷ヲ想ヒ悼惜
ノ至ニ堪ヘズ、茲ニ虔シク哀誠ヲ布ク。

編輯を終へて

幹事 山 本 檣 信

畏みて大御心を奉體し、億兆一心、全力を盡
して、自惚の強い敵國米英の非望を根こそぎ叩
きつぶし、以て大東亞共榮圈體制を確立して、
皇威八紘に洽き世界を顯現し、唯々、宸襟を安
んじ奉らんことを念願するのみである。此の大
事に挺身するこそ、大海の一粟の如き、みたま
われらの存在を、無窮の生命に顯揚する、唯一
筋の道である。

盡忠至誠の將士は、風行雷動、求敵必殺の威
武を發揚し、寒風怒濤の中、或は酷熱彈雨の下